

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
いちごROOM MOE		令和 7年 3月 7日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		部屋の配置を工夫している。	活動内容によって、空間の確保をしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		利用定員や子どもの状況に応じた配置をしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		マットを敷くなどをして工夫している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日の掃除 換気・加湿器・消毒など実施。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5		今後、作っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		皆で話し合っている。	定期的な実施をしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		親の要望によりマットを敷くなど、改善している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		ミーティングで話し合っている。	引き続き、行っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		今後行っていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		月一の勉強会や個々の研修を行っている。	継続して実施していく
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		作成したものを、職員で共有し、実行している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		何かあれば、話し合いをしている。	小さなことでも、報告が出来るようにしていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		ミーティングで話し合っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		皆で話し合い、対応している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインの勉強を実施 ミーティング等で話し合いを実施	ガイドラインは見ているが、改善点もある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		前もって準備をし、話し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		季節によって制作を月1で行っている。 月ごとに、玩具の入れ替えや遊びの提供をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		・こどもの状況をHUGに打ち込んで職員間で共有している。 ・書道、お抹茶等。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		当日の午後に職員全員で確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		送迎が終わり次第行っている。 出来なければ、翌日のミーティングで実施。	HUGを活用できるようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		些細なことでも、HUGに記載し、情報共有をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		ミーティングで話し合っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)		5		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時に保護者と話している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		面談の際に行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		面談や送迎時に行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		面談の際に行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		いちごまつりでは交流している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		何かあればすぐに苦情対応をしている。	

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		ホームページ、ブログ、MOEだよりで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		勉強会で実施している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		書面や口頭で伝えている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		いちごまつりで近所の方々を招待している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		月1で避難訓練を行っている。	連絡帳には書いているが、保護者に具体的には伝えていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		非常食や水を備えている。	実施しているが、課題も多いため見直しが必要。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		保護者と情報共有をしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者から情報をいただいている。 掲示している。 ・勉強会をしている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		・車内に置き去り防止装置を付けている。 ・研修を定期的に行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			緊急時のために、保護者の職場などの連絡先を聞いていく予定。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		何かあれば次の日のミーティングで報告している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		月1で勉強会を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		必ず記載している。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	いちごROOM MOE		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 14日 ～ 令和 7年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 10日 ～ 令和 7年 2月 18日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもが安心して楽しく通所している。	安全に配慮した環境づくりを行っている。	下駄箱の段差など、バリアフリー化を進める。
2	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、共通理解が出来ている。	連絡帳やお便り、ホームページなどで情報の交換・発信を行っている。	SNSを活用する。
3	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題に合わせて療育を行っている。	こどものレベルに合わせたトレーニングを行っている。	スタッフの研修を増やし、こどもたちにとって良い療育になるように努力する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や地域のこどもと活動する機会が少ない。	こどもたちの学年も上がり、宿題や勉強もあるため、なかなか交流の場がもてなくなっている。	長期休暇の際に、交流の場を1日でも多く持てるように努力する。
2	家族に対して家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が少ない。	情報提供を発信する力、機会を設けることが意識的に出来ていない。	研修など、立案し、意識的に取り組めるように努力していきます。
3	保護者同士の交流の機会が少ない。	1年に1度のお祭り以外は交流の場が持てていない。	保護者同士が交流できる場を新たに設ける。